

笑ってごらん

第 611 号 H. 30. 1. 23 発行

～今日のことば～

欲望は

触れている情報量に比例して増大していく
(ブータン国王)

◇◆17日(水)、推薦入試を実施した。無事出願した生徒全員が受験を終えた。25日(木)には一般入試が行われる。再び強い寒波に見舞われている日本列島。試験前日の24日には雪が舞う予報も出ており気になる。また、本校内でも2回学級閉鎖を余儀なくされたほど大流行しているインフルエンザについても心配なところである。無事終わってくれることを祈るばかりである。受験生諸君、ガンバレ～！

◇◆20日(土)ふれあいかせだにて実施された『南さつま人 心輝け 市民フェア』に参加した。ロビーには『飛びたて高校生事業』のパネル展示があった。本校の2事業「サイクリングPR」と「鳳凰かぼちゃ作り」についての中間報告もあり、台湾渡航報告や収穫したかぼちゃを使ったお菓子作りの経過がよくまとめられていた。イベント冒頭で『飛びたて高校生事業』についての概要説明がなされた後、本校の「フリーペーパー発刊」についてのプレゼンテーションがあった。制作途中の掲載記事概要を説明し購読意欲をかき立てる立派な説明だった。2月初旬発刊を目指し、いま最終校正の段階。できあがりを楽しみである。 ◆表彰式においては「思いを伝えるメッセージ」準大賞として高等学校・特別支援学校の部で本校3年生高原悠里さんの作品が選ばれ表彰された。 ◆続いて二代目林家木久蔵師匠による『木久蔵流 笑うが一番』と題した文化講演が行われた。『笑点』でもお馴染みの初代林家木久蔵(現 林家木久扇)師匠の息子さんであり、真打昇進11年目とのこと。冒頭からいきなり引き込まれ、たくさん笑わせてもらった。やはりプロの噺家さんの話術は素晴らしいと感じた。師匠の話によれば、寄席などでは「今日はこの噺をするぞ！」と準備して臨むのではなく、高座に上がって枕話をしながら客席の様子(年齢層や笑いに対する雰囲気)を観ながらしゃべる「噺」を決めるのだそう。てっきり最初から準備されていると思っていただけに驚きだった。1時間ほどの講演の後、舞台が講演スタイルから高座スタイルに転換され、最後に短い落語を一席披露された。『初天神』というこれまでもTV番組で観たことのある「噺」だったが、木久蔵師匠による親子の掛け合いの間が絶妙で大変面白かった。講演の部であったように、私たち客の雰囲気によって師匠が「今日の噺は初天神にしよう」と決めただけあって客席の反応も良く、私は笑いすぎて頬の筋肉が疲れてしまった。



感謝道

◇◆昨年6月にローソンが企画販売した『ベーカリー甲子園』において、本校の「天使の卵」パンが売り上げ数第1位に輝き、先日、三反園知事より知事賞を頂戴した。18日(木)17:00、本坊南さつま市長のところへ報告に伺った。市長さんは市長就任以前に本校のPTA会長をお務めいただいたこともあって、我が事のように大変喜んでくださり、「こうして高校生が頑張るのはとても素晴らしいこと。もっともっといろんなことに取り組んで欲しい。飛びたて高校生事業についても今後も続けていくので是非尽力して欲しい」とエールをいただいた。

◇◆19日(金)昼食時間に南日本新聞南さつま支局長さんが来校。「ひろば 若い目」欄にたくさん投稿・掲載されたことを祝して、このたび本校は『若い目賞』を頂戴した。作品が掲載された生徒7名も同席してくれ、支局長さんから今後のさらなる取り組みに対して激励の言葉もいただいた。ますます頑張りたい。